

第2次日野市下水道プラン【概要版】

■ 策定の背景と主旨

下水道は公衆衛生の向上、都市の健全な発達および公共用水域の水質保全に貢献し、さらには、宅地や道路等に降った雨水を速やかに排除し浸水被害を軽減する等、私たちが快適で、安全・安心に生活していく上で不可欠な社会資本の一つです。日野市では、平成23年度末、下水道における総合的な計画「日野市下水道プラン（計画期間：平成24年度～令和3（平成33）年度）」を策定し、重点的かつ計画的な事業運営に努めてきました。

その結果、市内を流れる多摩川・浅川等の河川水質が向上し、市民の憩いの空間や生物の生息空間が形成されるようになりました。

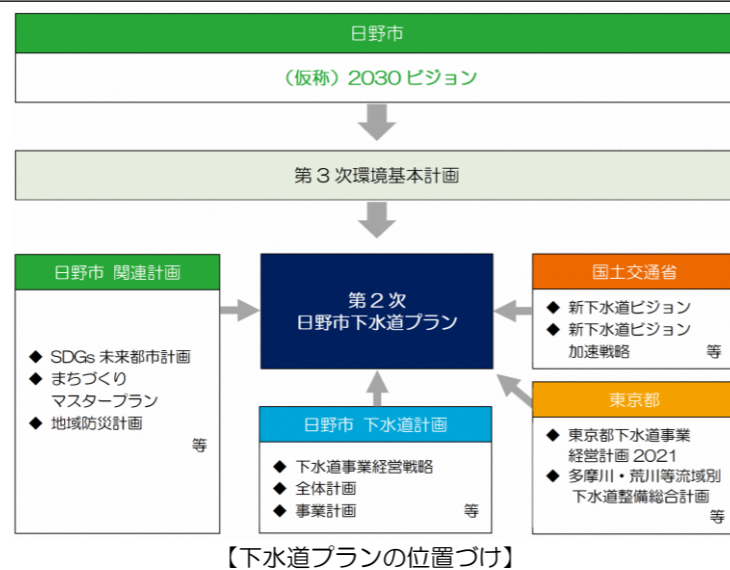
しかし、近年多発する集中豪雨への対応、大規模地震による被害への対応、膨大な量の下水道施設の維持管理、人口減少による使用料収入の減少等、新たな課題に直面しています。

第2次日野市下水道プランは、こうした現状の課題に対して、中・長期的視野に立ち、今後9年間で実施すべき公共下水道事業の具体的な施策を示すものです。

■ 計画の位置づけ

第2次日野市下水道プランは、国が示した「新下水道ビジョン」、東京都が策定した「多摩川・荒川等流域別下水道総合計画」、日野市が策定予定である「（仮称）2030ビジョン」や日野市の各種計画等を勘案して策定します。

また、第2次日野市下水道プランは、環境基本計画を上位計画とし、連携を図ります。



■ 計画期間

第2次日野市下水道プランの計画期間は、9年間（令和4年度～令和12年度）とし、最初の4年間を前期計画、その後の5年間を後期計画として設定します。中間年度は、整備目標を設定した施策について、目標達成度合等のフォローアップとして検証を行うために設け、その時点で必要に応じて見直しを行います。

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
第2次日野市下水道プラン	事業実施			中間評価 (計画見直し)	事業実施			目標			
各種関連計画	(仮称) 2030ビジョン	策定予定	事業実施						目標		
	SDGs 未来都市計画	事業実施						目標			
	第3次環境基本計画	計画推進			中間検証	計画推進			目標		
日野市 関連計画	下水道事業経営戦略	事業実施		中間評価 (計画見直し)	事業実施			目標			
	全体計画	事業実施	計画変更	事業実施							
	事業計画	事業実施	計画変更	事業実施							

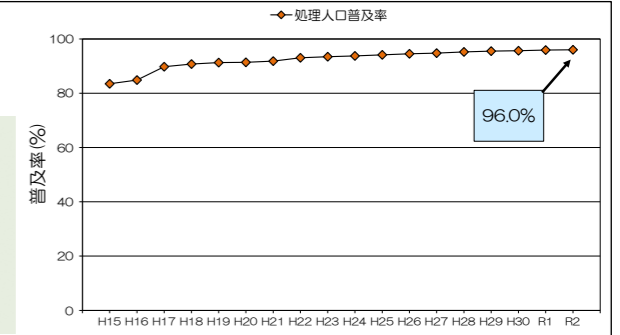
※事業計画は、事業期間が5～7年です。令和6年度以降は、事業進捗に応じて計画変更を行います。

【下水道プランと各種関連計画の進行スケジュール】

■ 現状と課題

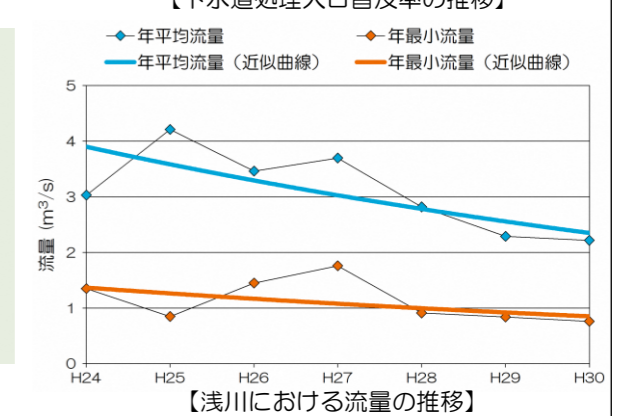
● 汚水処理

- 日野市の下水道処理人口普及率は96.0%、接続率は98.3%に達しました。
- 公共用水域の水質や使用料収入の向上を図るため、汚水未整備区域の解消と接続率100%への取り組みを実施する必要があります。



● 水環境の保全

- 汚水整備が進むにつれ、浅川の水質は向上しました。
- 一方、市街化に伴う地下浸透域の減少から、浅川の水量は減少傾向にあります。
- 湧水地点についても、従来と比較して減少傾向にあります。
- 浅川の流量維持や湧水の保全のため、雨水浸透施設の設置を促進する必要があります。
- また、雨水浸透施設の機能を長く維持するため、市民や民間事業者等に、定期的な清掃・点検に協力してもらう必要があります。



● 浸水対策

- 近年、雨の降り方が「局地化」、「集中化」、「激甚化」しています。
- 都市の浸水対策の役割を担っている日野市の雨水整備は、特に浸水被害が多発している地域について集中的に事業を推進し、面整備率は89.0%に達しました。
- 今後は、内水ハザードマップ等の作成により、自助・共助の促進を組み合わせた総合的な浸水対策が必要となります。
- さらに、雨水管理総合計画を策定し、優先度を考慮した浸水対策を推進し、気候変動に伴う豪雨に対して対策を実施する必要があります。

● 地震対策

- 「液状化の可能性が高い」地域の重要な幹線等に対する耐震化率は、100%となっています。
- 災害時対応として、下水道施設の機能を維持・早期回復できるよう努める必要があります。

● 維持管理

- これまで整備してきた膨大な量の下水道施設を適切に管理するために、計画的な点検・調査および効率的な修繕・改築を実施するとともに、維持管理情報の集積と活用が重要となります。
- 昨今、雨天時に雨水が汚水管に流入する状況が多く確認されており、計画的な対策が必要となります。
- より安全・確実に樋管の操作を行うため、開閉の自動化や遠隔化システムの導入が望まれます。

● 資源の循環利用

- 処理水や下水汚泥は、多様な資源として活用できる可能性を有しています。
- これまで日野市では、東京都と連携し、処理水の再利用や下水汚泥の有効利用に努めてきました。

● 魅力の発信

- 日野市では、マンホールカードやイベントを活用し、市民に対して啓発活動を行ってきました。
- 今後も、市民に対し、下水道事業について理解・関心の強化や、防災意識を向上していくため、積極的な広報活動を実施する必要があります。

● 下水道経営

- 日野市の下水道事業は、地方公営企業法を適用することで、健全な事業運営の実現に向けた取り組みを行っていますが、未だ支出が収入を上回っている状況です。
- このような状況を踏まえ、令和3年度に策定された「日野市公共下水道事業経営戦略」に基づき、経営の健全化を推進する必要があります。
- 日野市人口ビジョンでは、将来的に人口減少に転じると推計され、今後下水道使用料収入の減少が予想されることから、人口減少にも対応できる下水道事業運営へ変えていく必要があります。
- 経費の節減や業務の効率化、職員の技術継承に向けた、広域化・共同化を推進する必要があります。

■ 基本理念・基本方針および具体的施策の内容

日野市の下水道事業は、時代の変化に伴い、解決すべき課題が顕在化しています。こうした状況の中、下水道の基本的な役割を担い続けるとともに、長期的な視点に立って下水道サービスの更なる向上を図る必要があります。また、課題やニーズが多様化・複雑化し、日野市だけの対応が難しくなっており、こうした課題を解決するためには、市民の皆様の協力や東京都との連携が必要不可欠です。

そこで、こうした課題に対し、「グリーンインフラ」や「デジタル化」といった新たな視点を取り入れ、具体的施策を示しています。また、市民の皆様や東京都との連携強化を図ることで、複合的な課題解決に取り組みます。

日野市下水道プラン（平成24年度～令和3年度）				第2次日野市下水道プラン（令和4年度～令和12年度）				前回プランの見直し	
基本理念	基本方針	主な施策	取り組み	基本理念	基本方針	主な施策	取り組み	取り組み内容	
水が豊かで、下水道とともに創りあげる 安心・安全なまち 日野	自然と調和した環境に 優しいまちづくり	汚水処理	① 公共下水道（汚水）の整備促進	自然と調和した環境に 優しいまちづくり	汚水処理	① 公共下水道（汚水）の整備促進	① 公共下水道（汚水）の整備促進	土地区画整理事業に合わせた未整備地区の整備促進を行います。	継続
			② 下水道管きよ（汚水）への接続促進			② 下水道管きよ（汚水）への接続促進	未接続家屋の下水道への接続促進に努めます。	継続	
		水環境の 保全	① 雨水浸透施設の普及促進		水環境の 保全	① グリーンインフラの取り組み促進	グリーンインフラの考え方に 基づき、雨水の地下浸透を図り、 水循環の健全化を推進します。	継続（一部見直し）	
			② 下水道管きよ（汚水）への接続促進			② 下水道管きよ（汚水）への接続促進		継続（一部見直し）	
	安全・安心に暮らせる まちづくり	浸水対策	① 公共下水道（雨水）の整備促進	浸水対策	① 公共下水道（雨水）の整備促進	浸水リスクを評価し、雨水整備の優先度の高い地域を中心に雨水整備を推進します。	継続（一部見直し）		
			② 浸水対策の推進		★重点項目 ② 気候変動に対応した浸水対策の強化	計画規模を超える降雨に対して、ハード対策、ソフト対策、自助・共助の促進を組み合わせ、総合的な浸水対策を推進します。	継続（一部見直し）		
		地震対策	① 下水道地震対策計画の策定	地震対策	① 災害対応能力の強化	下水道BCPの継続的な見直し・定期的な訓練を実施し、避難所におけるトイレの確保・管理について計画を策定します。	新規		
			② 下水道管きよ（汚水）の耐震化推進		① 下水道ストックマネジメント計画に基づく維持管理	下水道施設の老朽化による道路陥没等の被害が起こらないよう、計画的・効率的な維持管理を実施します。	継続（一部見直し）		
		維持管理	① 下水道長寿命化計画の策定	維持管理	★重点項目 ② 雨天時浸入水対策の推進	雨天時浸入水に対して、計画的な対策を推進します。	新規		
			② 下水道長寿命化対策の推進		③ 維持管理のデジタル化推進	下水道施設の老朽化や雨天時浸入水等に的確に対応していくため、維持管理のデジタル化を推進します。	新規		
	地域の魅力を活かしたまちづくり	資源の循環利用	① 雨水浸透施設の普及	地域の魅力を活かしたまちづくり	資源の循環利用	① 下水道資源の有効利用	東京都と連携し、処理水や下水汚泥の有効利用に努めます。	継続（一部見直し）	
	健全な下水道経営	下水道経営	① 効率的な下水道経営	健全な下水道経営	下水道経営	① 情報発信の充実	下水道の魅力や防災情報を積極的に発信していくことで、“下水道の見える化”に努めます。	新規	
② 公営企業会計の導入			★重点項目 ① 経営戦略に基づく事業運営			経営戦略に基づいた事業運営を行い、経営基盤の強化に努めます。	新規		
					② 広域化・共同化の検討	効率的な管理が可能な広域化・共同化について、近隣自治体と検討します。	新規		

注. 前回プランからの見直しについては、継続：前回プランの施策をそのまま踏襲するもの、継続（一部見直し）：一部、前回プランの施策を見直し、追加して実施するもの、新規：新たに取り組む施策を示します。

浸水対策

★重点項目
② 気候変動に対応した浸水対策の強化

ハード
・浸透施設の普及、貯留施設の設置検討

ソフト
・内水ハザードマップの作成・公表、BCPの実践、情報発信の検討

自助・共助
・防災訓練等の実施

維持管理

★重点項目
② 雨天時浸入水対策の推進

・流量調査に基づき、優先度を考慮した対策工事の実施

・ストックマネジメント計画と調整を図った対策工事の実施

下水道経営

★重点項目
① 経営戦略に基づく事業運営

・経営戦略に基づいた事業運営による、経営の健全化推進

・経営戦略の検証・見直しと合わせた、下水道使用料改定の必要性に関する検証の実施

・地方公営企業法の適用による“経営の見える化”の推進

■ 進捗の管理

第2次日野市下水道プランでは、整備目標を設定した施策について、目標達成度合い等のフォローアップとして検証し、適切に進行状況を管理します。

中間年度である令和7年度は、整備目標に対して進捗状況の中間評価を行うとともに、社会情勢の変化も考慮し、必要に応じて計画の見直しを行うことで、より適切なPDCAサイクルを実現します。

なお、下水道プランは、上位計画である第3次環境基本計画の実行計画として位置づけられています。下水道プランのPDCAの進行管理とともに、第3次環境基本計画における「評価（Check）」を踏まえ、事業を推進していきます。

